

未来を創り出す力 ★ グローカルリーダーの育成

<コンソーシアム>

北海道教育委員会
登別市・胆振総合振興局・室蘭工業大学
登別市教育委員会・登別社会福祉協議会
登別商工会議所・登別国際観光コンベンション協会

キャリアデザインの確立

前期課程
地域について学ぶ

- ・地域ウォッチング
- ・理科・社会科見学
- ・世界と日本・北海道のつながり
- ・SDGsについて学ぶ

4回生
地域課題探究

- ・地域の課題がテーマ
- ・地域と連携
- ・グループ単位
- ・提案⇒アクション
- ・研究の継続

5回生
キャリア課題探究

- ・テーマ設定は自由 (継続・興味・関心)
- ・個人研究
- ・論文6000字
- ・実生活・社会と関連
- ・アメリカ・カナダ研修でのプレゼンテーション

6回生
研究成果の発信

- ・英語論文・プレゼンテーション作成
- ・ビジネスプラン作成
コンテストへの応募
- ・卒業後のアクションプランの作成

グローバルな視野を醸成する取組

海外フィールドワーク, テレビ会議,
イングリッシュキャンプ,
アジアの架け橋
アメリカ・カナダ海外研修,



全教員が
課題研究の
アドバイザー

医療

防災

産業

地域の課題解決
探究学習
5つのユニット

福祉

循環型
社会

グローバルな視点をもつてコミュニティを支える地域のリーダー

開校の精神

明日を創る

<本日の話題>

1. 基本設計
2. 探究の
カリキュラム
3. 地域との協働
4. 世界との接続
5. 具体的な成果

すべての探究が到達しなければならないラインは、
発見した課題がその通りか検証する【B4】

何度でもできる！
勉強も部活もPBLに！

4	検証	仮説や条件とずれた原因を考える。	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	仮説・条件と調査結果から、できることできないこと・急ぐこと時間がかかることなどを分析。	仮説の通りの成果が得られたか、次にできることは何か分析し、超Dへ。	仮説の通りの成果が得られたか、次にできることは何か分析し、超Dへ。
3	調査 F W	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	調査しながら考えを提案し、仮説・条件がその通りか確認する。	プロジェクト実行！！	プロジェクト実行！！
2	定する	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	クリアするための条件、現時点でできていない要因を想定する。	実現の条件、乗り越える壁、協力すべき人、いつまでに何をするか、を想定する。	実現の条件、乗り越える壁、協力すべき人、いつまでに何をするか、を想定する。
1	てる	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	仮説・条件と調査結果から問いを深める。	△△をクリアすれば〇〇は改善できる(もっとよくなる)	〇〇改善に向けて、自分のできるのは□□だ	〇〇改善に向けて、自分のできるのは□□だ
↑ 探究ループ		課題発見		ゴール 〇〇の解決法や改善案を考案	ゴール 自分たちでできることを実行	ゴール 自分たちの実践をさらに超える！！
探究深度 →		A	B	アクションプランを提案 プロジェクトを企画	アクション プロジェクトを実行	複数回プロジェクト実行 ヒーロー予備軍！
		調べ学習(探求ではない…)	他人ごと課題研究	自分ごと課題研究		

実際には、
ほとんどが【C軸】。
探究モンスター級の
【超D軸】も毎年出現！

2. 探究のカリキュラム

< 4回生（高1）秋まで >

- 1学期中間考査まで

L 探究アイデアマップ、テーマ設定、校内ヒアリング

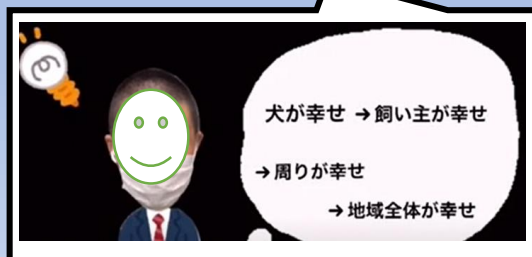
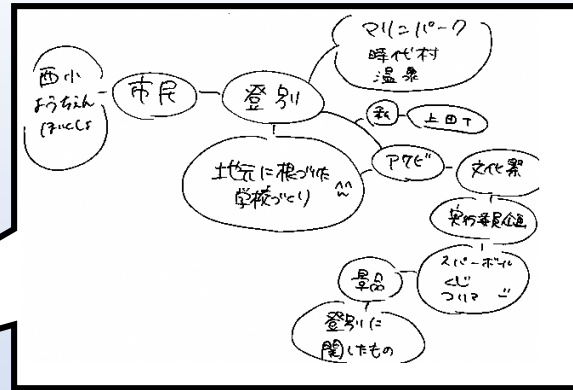
- 1学期期末考査まで

電話アポイント、フィールドワーク

- 2学期中間考査まで

地域課題探究（L 探究）成果発表

（動画 & A4一枚の資料）



スイーツでバズっちゃお！
～登別がいきる未来を創り出せ～

地域との接続
産業

◎理想の状態

- 登別に**興味が出る**特産スイーツがたくさんある！
- 登別の**特産品の可能性**が広がる！
- 10代、20代にウケて**バズる**！

◎現状

- 印象的なイメージが小さい

◎イメージ

- 注菓子
→大衆的な需要が高いイメージ
- カスタムが強い
例)トッピングが決められる
生地などの種類が選べる

登別の**特産品を有効活用**できるつ、**大衆に興味を持ってもらえる**ようなスイーツを考え、製作する！

2. 探究のカリキュラム

< 5回生（高2）秋～6回生（高3） >

- 5回生 12月

海外見学旅行（アメリカ、カナダ）

- 5回生年度末までに

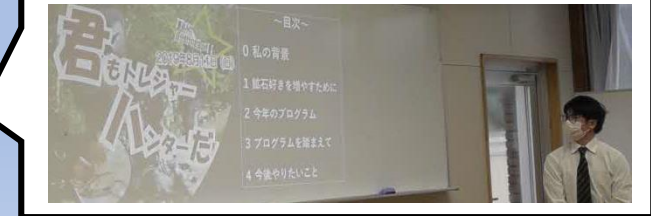
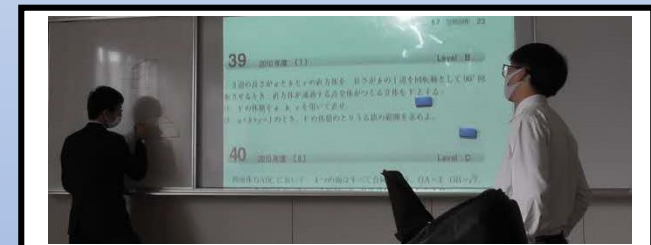
【フィールドワーク、提案・アクション】 × n

- 5回生学年末

英語レポート作成

- 6回生

学びのプロジェクト、校内アゴラ





令和3年度 5回生キャリア課題探究 (C探究)

探究羅針盤 第一章
 年度初め～1学期中間考

自分たちのGRITを振り返る
 伴走の先生に挨拶・説明・相談
 連続PJTを計画する
 連続PJTを実行する
 連続PJTを振り返る
 連続PJTを計画する

令和3年前期 4回生L探究・5回生C探究 成果集チェックリスト

成果集で「ヴァリュー」を魅せるためのチェックリストだよ

5回生C探究のクラスルーム「便利グッズ」にも資料を置いてあります。

AKB 課題探究マトリックス (2021年度 ver.1.0)

探究レベル	探究内容	探究の深まり	探究の動機
1	ゴール〇〇について知る	ゴール〇〇の課題を知る	ゴール〇〇の解決法や改善策を考える
2	ゴール〇〇について知る	ゴール〇〇の課題を知る	ゴール〇〇の解決法や改善策を考える
3	ゴール〇〇について知る	ゴール〇〇の課題を知る	ゴール〇〇の解決法や改善策を考える
4	ゴール〇〇について知る	ゴール〇〇の課題を知る	ゴール〇〇の解決法や改善策を考える

(注) あくまでも、オーソドックスなリストです。さらに効果的な方法があれば、どんどん変更して実践してかまいません。探究も発表も、あなたたち「生徒のもの」です。

【主観的動機】なぜやりたいか。自分事での動機がある。
 【客観的意義づけ】なぜその探究に意義があるか。客観的な現状・事実を使って説明できている。
 説明に図表(グラフや概念図など)を使っている。
 意義づけが、グローバルに接続している。(SDGsの何番?)
 意義づけが、ローカルに接続している。
 思い描く【理想の状態】が示されている。
 現在の状況(客観的な事実)が示されている。
 【理想-現状】の【差】から、解決すべき課題を示している。
 勝手な思い込み(仮説)ではなく、文献や調査により検証している。

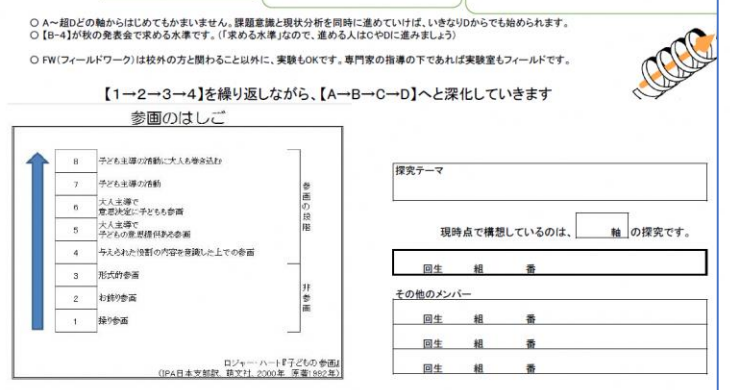
探究の深まり

仮説と検証
 活動の前に「たぶんこうだろう」という【仮説】を立てている。
 フィールドワークや実験が、【仮説を検証するため】の活動になっている。
 検証で仮説が否定されても、それを受け容れている。【反証可能性】
 検証の結果を受けて、新たな仮説を考えている。【仮説と検証のサイクル】

外面・具体
 【A】調べ学習で終了。
 【B】現状・事実を調べ、課題を発見することができた。
 【C】発見した課題の解決策を提案できた。
 【D】自分たちができるプロジェクトを実行できた。
 【超D】プロジェクトを複数回実行し、進化させている。

内面・抽象
 ※達成できたものすべてにチェック。【A】から順にチェックできるはず。失敗した・うまくいかなかったことの反省、次回の改善策がある。
 うまくいっていることの反省がある。「本当にこれでいいのか?」
 原因の階層化がある。「その原因のさらに原因は何だろうか?」

将来継続性
 探究が進む(課題が解決する)ための今後の課題を述べている。
 【具体化】今後の具体的なアクションプランがある。
 【プロジェクト化】プランを現実化するための計画がある。



探究の記録

活動
 「たぶんこうだろう」という【仮説】から始まっている。
 活動の内容を記録している。(いつ、どこで、だれと、何を、どのように)
 調査や実践の結果、わかったこと【検証結果】を示している。
 (可能な限り)複数の調査や実践の成果を用いている。
 数値や資料など、証拠となるものを示している。
 【抽象化】わかったことを短文で表現している。
 その問題や探究活動について、今後の課題と展望を述べている。
 参考文献や先行事例のリストを挙げています。

まとめ
 ※PJTは検証や課題解決の手段。PJTそのものが目的化しないように!
 活動(フィールドワークや実験)ごとにまとめ、枠で囲うなどの工夫をしている。
 図表(FW先での画像を含む)を用いて全体を分かりやすく、見やすくしている。
 数値や資料など、証拠となるものを示している。

見せ方

探究の深まり

仮説と検証
 活動の前に「たぶんこうだろう」という【仮説】を立てている。
 フィールドワークや実験が、【仮説を検証するため】の活動になっている。
 検証で仮説が否定されても、それを受け容れている。【反証可能性】
 検証の結果を受けて、新たな仮説を考えている。【仮説と検証のサイクル】

外面・具体
 【A】調べ学習で終了。
 【B】現状・事実を調べ、課題を発見することができた。
 【C】発見した課題の解決策を提案できた。
 【D】自分たちができるプロジェクトを実行できた。
 【超D】プロジェクトを複数回実行し、進化させている。

内面・抽象
 ※達成できたものすべてにチェック。【A】から順にチェックできるはず。失敗した・うまくいかなかったことの反省、次回の改善策がある。
 うまくいっていることの反省がある。「本当にこれでいいのか?」
 原因の階層化がある。「その原因のさらに原因は何だろうか?」

将来継続性
 探究が進む(課題が解決する)ための今後の課題を述べている。
 【具体化】今後の具体的なアクションプランがある。
 【プロジェクト化】プランを現実化するための計画がある。

縄文を、北海道から盛り上げる!

5★☆☆☆☆

産業界 福祉 医療

◎単発的意義
 ・「縄文」世代が縄文を支持し始める
 ・縄文の魅力をSDGs達成につながる

◎フィールドワーク
 8月2日(伊達教育委員会の意向) 縄文発掘の現場「アイディア出し」
 2月1日 3月22日 4月12日 12月17日 1月17日
 1わかまにも手紙の発送準備中

◎LINEスタンプ
 歴史の知識に役立つために、写真が豊富でたくさん使いたいLINEスタンプを開発した。縄文の日常スタンプとしてを販売し、好評だった。期間限定で無料配布中。

◎縄文ワークショップ
 2022年11月10日 SDGs達成に向けて、縄文文化の魅力を伝える機会を作ろうと考え、縄文ワークショップを実施する予定だ。

◎企画
 マイプロジェクティブワード #summit
 2022年11月10日
 道庁主催のイベントとして、道庁の取り組みを推進する。このイベントを通じて、道庁の取り組みを推進し、道民の生活に貢献する。

唾液と共に幸せをつかむ!

48**

歯科医師1065名に調査した「マスク時代における唾液力」

唾液力が低下する原因
 ・ストレス・運動不足・食事・不規則な生活
 ・加齢・口呼吸 等

唾液力が低下で起こる病気
 ・インフルエンザ(感染症)
 ・歯周病・動脈硬化
 ・大腸炎・がん
 ・うつ病 等

唾液力はとても身近で大切!

プロジェクト案
 唾液量検査を行い
 結果を元に唾液力をアップさせる!

測定方法
 ガムを10分噛み続け、
 分泌された唾液をすべてコップに
 吐き出す。基準値10ml/10min。
 少しでも今より健康な生活を過ごし
 幸せを増やしたい!

今後の予定
 ・唾液量検査を行う上でのポイントを聞く
 ・唾液力をアップするための方法
 ⇒身近・簡単

2. 探究の力

<教科との連携>

- 単元配列表の編成

『現代の国語』 大修館

単元番号	単元名
1	明日をひらく
2	要点をつかむ
3	的確に伝える
4	意見を示す
5	論理をとらえる
6	魅力的に伝える

単元配列	
2 要点をつかむ	連休の講義動画視聴へ プレストへアイデア整理 テーマ設定へ
4 意見を示す	
3 的確に伝える	校内ヒアリング、FWへ
5 論理をとらえる	夏の文献調査へ
6 魅力的に伝える	FW報告、発表へ
11 主張を吟味する	発表へ
12 考えを発信する	発表へ

	総合的な探究の時間など	主な知識技能
4月	L探究オリエンテーション	社会の課題 要点把握 検索
連休	L講義動画視聴	
5月	L探究テーマ設定① L探究テーマ設定②③ L探究テーマ設定④⑤	課題発見 アイデア出し
考查前	ワークブック提出①	
6月	L探究テーマ設定④⑤ L探究FW事前指導① L探究FW事前指導② (校内ヒアリング)	傾聴・質問 調査の記録
7月	ワークブック提出②	
夏休み	L夏FW	
8月	L探究FW事後指導①	発信力 相手の言葉から ヒントを得る
考查前	ワークブック提出③	
9月	L探究発表準備①	資料の活用 情報の吟味 論理的発信 スライド作成
	L探究発表準備②	

3. 地域との協働

- 基本的な考え方

「参画のはしご」

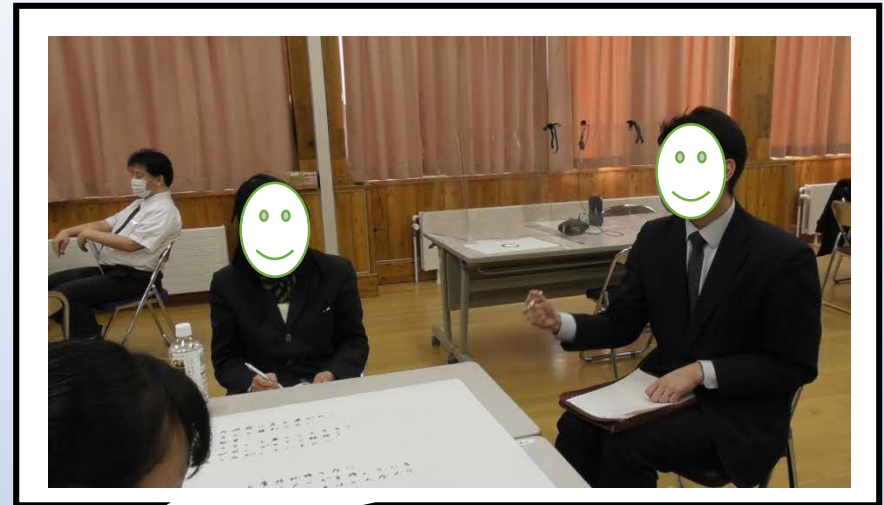
生徒の学びにつながるか

- コンソーシアムの活動

コンソーシアム企画ワークショップ、校内ヒアリング

- 登別市市制50周年記念事業

未知の駅PJT~Be Smile プロジェクト



4. 世界との接続

- 海外フィールドワーク → 海外オンラインプログラム
令和元年度オーストラリア実施、タイ中止
令和2年度途中、オンラインプログラムに切り替え
令和3年度オンラインプログラム継続
- イングリッシュキャンプ → イングリッシュデイ（泊無し）
令和元年度ニセコでのイングリッシュキャンプ中止
令和2年度登別でのイングリッシュデイ中止
- インターナショナルサイエンスフェア
- サイエンスダイアログ

5. 具体的な成果

- 生徒の主体性

ゲリラディスカッション、自発的な学習会

- キャリア形成への効果

探究【で】進路を決める生徒

進学後の行動力・学びに向かう力

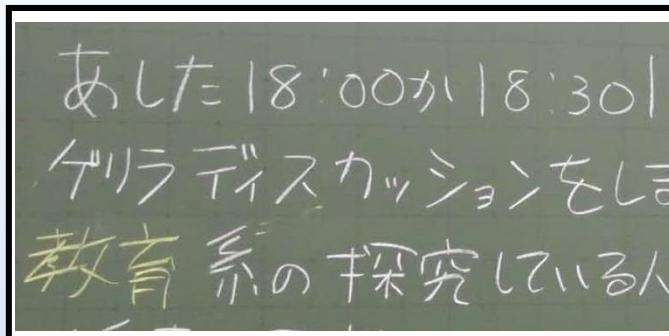
- 各種大会での入賞

3年連続でマイプロジェクトアワード全国Summit進出

- 新聞・雑誌等への掲載

「探究」への導き2022、月刊高校教育、

Career Guidance、VIEW next



「探究」の全体設計

地域との協働

「対話」特集
「対話」的
な探究活動

「マイ・ストーリー」特集
探究・教科リフレクションから進路実現へ